

「熱意を忘れない方」

私たちは、今日もこうして礼拝堂に集い、一緒にお祈りをしたり、讃美歌を歌ったりしています。そして、今日も礼拝後には、今週末のキャロリングに向けた讃美歌練習を行うこととなります。今日という日は、毎週訪れる聖なる1日、キャロリングは毎年行われる恒例行事、クリスマスを迎えることも、私たちにとっては、ごく当たり前の毎年のことである、と言って良いかと思えます。けれど、「すべてのことに感謝しなさい」と教えられている私たちは、そういう「当たり前のこと」の中に、神様の恵みを数える信仰と言いますか、感性を持っていても良いんじゃないかと思えます。今日、こうやって当たり前のように礼拝堂で祈っている、今年も当たり前のようにクリスマスに備えている。でも、そうすることができるのって、多分、ものすごく幸せなことなんじゃないだろうか、と。

そういう視点で考えていきますと、今年、4年ぶりに再開されるキャロリングは、今の私たちにとって、ちょっと幸せ指数が高いかも知れませんね。コロナ禍が去ったか、どうかは、よく分かりませんが、少なくとも私たちの社会は、人が集まること、集まった中で歌うことを許容できるくらいには、平常を取り戻すことができました。「集まって歌を歌う」という当たり前のことが制限されることで初めて、その有り難みと喜びを再確認した、というのが、ここ最近の多くの教会の実体験かと思えます。思い返すと、この礼拝そのものもお休みする期間がありました。敦賀教会が、コロナ禍のために礼拝をお休みした最初の日は、イースターでした。それは、象徴的と言いますか、残酷と言いますか、いずれにしても一層記憶に残る出来事であったかと言えます。

色々振り返ってみて、やっぱり、私たちが今享受している、当たり前のことって、すごく幸せ

なことなんだな、と思わされます。「失って初めて気づかされる」という非常に人間らしい浅はかな傾向が、少々残念ではありますが、でも、「失う」という経験を通して神様は、私たちに「感謝すること」の大切さを教えてくださっているのだと思います。神様の導かれる歴史にあって、私たちが受け取っている「日々の当たり前」は、無色透明ではない、無味無臭ではない。そこには、非常に細やかな神様の配慮があって、優しさがあって、私たちをより良い道へと、導いてゆかれようとする神様の御心が働かれています。私たちの「当たり前」は、いつも神様の愛に彩られ、華やかで、賑やかで、何ものにも代え難い価値を備えている。今日の、この礼拝も、礼拝後の讃美歌練習も、週末のキャロリングも、クリスマス礼拝も、祝会も、燭火賛美礼拝も。コロナ禍を経て、いや、別にコロナ禍なんて無かったとしても、とても恵まれた、幸せな出来事であると、そう受け止めて参りたいと思います。実は、わたしは「すべてのことに感謝しなさい」という御言葉って、ちょっと苦手なんです。だって、人生普通に生きていけば、つらいこと、嫌なこと、たくさんあるわけで、とてもじゃないが、感謝しっぱなし、という風には生きられません。でも、そんな私にとっても、日頃何気なく過ぎゆく時間の中に、とても尊い神様のご配慮があることに気を留めるなら、「確かに、感謝しないといかんな」と思わされます。

そして、「感謝」と同時に、「賛美」の気持ちも芽生えて参ります。「神様、今日も当たり前で穏やかで幸せな1日をありがとう！」と感謝することに合わせて、「神様、あなたは本当に約束を忘れない方なんです、すごいですね」と。ここから、ちょっと神学的なお話になりますが、私たちの神様というのは、決して「幸せ製造機」ではありません。神様は、「わたしたちを幸せにするためにいらっしゃる」わけではありません。神様は、人間にとって都合良く働く機械では、決してありません。じゃあ、なんで神様は、私たちを愛し、私たちの日々の幸せを守ろうとされるのか。それは、神様が何度も何度も、そう約束してくださったからです。旧約聖書の古い時代から、新約聖書

の比較的新しい時代に至るまで。そして、聖書の後も続いている信仰の歴史の中で、神様は私たちに何度も繰り返し約束してくれたのです、「あなたを守る」と。「あなたを救う」と。「あなたを愛する」と。だから、神様は、私たちの日常を守り、今日も、こうして礼拝に招いてくださっています。しかし、この神様の約束という出来事の中で、忘れてはならない重要な点があります。それは、「神様は約束をちゃんと守ってくださるけれど、人間の側は、常に、よく、頻繁に、神様との約束を守らない」ということです。旧約聖書の出エジプトの時の出来事もそう、モーセさんが神様から十戒という大切な約束を受け取る、その真裏で人々は金の仔牛の像を作るという大失敗をし、バビロン捕囚の時も、切羽詰まった国家の危機に際して異教の神々の偶像を拝むという大失敗をしました。そして、新約聖書においても最初イエス様を大歓迎したかと思えば、最後は十字架へと追いやり、人は主の教え、主の愛を踏み躪ってきました。今、私は「神様の約束」「人間の側の約束」という言い方をしていますが、ユダヤ教・キリスト教における「約束」と言うのは、約束する両者が、それぞれ責任を負う「契約」という形をしています。「約束」と言うと、なんだか一方的な感じがしますが、神様と人間は、双方向的な「契約」関係にある、ということです。だから、人間の側にも、神様に対して果たすべき責務があるわけです。それは、「主を愛せよ」「偽証してはならない」などを含むモーセの十戒に始まり、「隣人を自分のように愛しなさい」というイエス様の命令なども含みます。しかし、聖書が伝える大昔の出来事においても、私たちが知っている歴史上においても、そして、私たち自身の生活においても、なかなか、「人間の側の約束」は、果たされてきませんでした。

しかし、そういう人間の側の度重なる無礼、不届き、契約不履行があったにも関わらず、神様は、今日も、私たちを礼拝に招いて、祈ることを赦され、この後、キャロリングの練習をしようとする私たちを見守ってくださっているわけですね。そして、明日からの日常生活において、私たちの

労働や奉仕の業を守り、支え、当たり前だけれども尊い、小さな恵みや幸せを、ふんだんに用意してくださっている。それって、とても素晴らしいことだと思います。

なぜ、神様は、そこまで私たちの心と魂と体を守ってくださるのか。それは、究極的には神様ご自身にしか分からないことだと思います。愛される側の人間が、愛してくださる方のお考えや御心を正確に言い当てることはできないでしょう。ただ、今日の説教題にもしましたが、神様って「熱意」を忘れない方なんだろうな、と思います。神様の我々人間に対する愛の内側には、「熱意」があんだ、と。実は、この「熱意」と訳されている言葉、他の聖書箇所にも使われています。出エジプト記 20 章 5 節や申命記 4 章 24 節にある「熱情の神」の、「熱情」ということばですね。まあ、「熱意」と似ていると言えれば似ています。が、古い日本語訳聖書になりますと、この「熱情」という言葉は、「ねたむ」と訳されています。あまり良い響きではありませんが、私たちの神様は「嫉妬深い」方である、ということです。そして、これは決して考えることを放棄しているわけではありませんが、「嫉妬」するほどに愛を傾ける、その理由というのは、多分、言葉や理屈では説明できないでしょう。神様は、言葉にできないほどの深く、熱く、激しい愛でもって、私たち一人一人を守り、支え、導いてくださっている、ということです。

今日の聖書箇所の最後においても、神様は、その私たち人間に対する「熱意」のゆえに、つまり、その「熱情」であり「妬み深さ」のゆえに、「これを成し遂げる」のだ、と言います。「これ」っていうのは、何かと言いますと、「正義と恵みに満たされたダビデの末裔による平和の確立」ということです。主の熱意が「平和」を成し遂げられる、と。そして、その大いなる御計画の、小さな徴として、「ひとりの男の子がわたしたちに与えられた」のだと。「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた」と。

神様との約束を守れず、破ってばかりで、隣人を愛することも簡単ではなく、神様を愛すること

さえ忘れることのある私たちに対して、神様は熱意を忘れなかった。その熱情をお忘れにはならなかった。毎年毎年、クリスマスという出来事を通して、神様は私たちに非常に明らかな愛の形を示してくださっています。「御子イエス・キリスト」という、神様の愛の塊のような幼子を、私たちはお迎えします。その幼児には、神様の愛に加えて、さらに「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」という称号も与えられ、大きな希望が伴っています。

クリスマスを待ち望むアドベントを過ごすにあたり、ことさら卑屈になる必要もありませんが、でも、なんの功もない私たちのために、罪を犯し、褒められることばかりじゃない私たちのために、神様がとても尊いプレゼントを用意してくださっているということに、感謝と賛美を祈りたいと思います。ほら、私たち自身は、子どもに対して「良い子にしてなきゃ、サンタさん来ないよ」なんて平気で言いますが、私たちの神様は、良い子じゃない私たちにも、クリスマスの喜びと希望を与えてくださるんですよね。「ありがとうございます。やっぱり、神様って、すごい優しい方なんです」って、伝えた方がいいですよ、きっと。

クリスマスまでの日々、私たちのことを深く愛し、赦し、恵みと幸いで満たしてくださる神様に、改めて感謝と賛美を捧げることを忘れないでいましょう。神様は、大昔からずっと私たちのことを忘れないでいてくださったのだから。心込めて備えて参りたいと願うものであります。

神様。

今日も、私たちをこの礼拝堂に招いてくださり、感謝致します。あなたの愛と熱意は、私たちの犯した罪に関係なく、いつも私たちの上に注がれ、また、毎年のクリスマスにおける明るく喜び溢れる雰囲気の中で、特に心に感じ、味わうことができます。私たちは、このアドベントの間、御子イエス・キリストをお迎えするために準備を重ね、心を整えて参ります。しかし、そんな私たちの準備や配慮を大きく超えて、あなたの恵みと祝福とが備えられていることに、心から感謝致します。どうか、今年のクリスマスも、あなたの愛と喜びに加えて、この先必ず実現するであろう平和への期待を新たにす、そんな希望に満ちた祝福の時を過ごすことができますように。あなたが、どうか導いてください。

このお祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。